

テーマ 「幼児中期の対話する保育実践」

10月20日（木）に第3回加藤繁美ゼミが開催されました。前回のゼミでは、3歳までの関わりの中で「受けとめて切り返す」を丁寧に繰り返すことで、自我（自己主張）の塊である姿から、第二の自我（社会的知性）が育まれていくことを学びました。今回のゼミでは、3歳～4歳にかけての発達の特徴や関わりのポイントを学びました。

イチヨマエの3歳児 ～2つの自我を揺れながら～

幼児中期（3歳児） 育ちの特徴

- ルールは分かっていても守れるわけではないが、友だちの間違いに気付いて教えてあげる3歳児
- どんなことも自分でできそう！！
「自信と誇り」の世界を生きる3歳児
- 絵本や物語の世界にどっぷりと入り込むことのできる3歳児
- 頭の中のイメージと自分自身が対話し、
イマジネーションの世界が育まれる3歳児

やらないといけないこと （第二の自我）

受けとめて切り返す関わりを繰り返し経験することで、要求を受けとめられる心地良さが育まれます。（社会的知性の育ち）

おもちゃ欲しかったんだね。
「かしてって言おうか」「じゅんばんだね」



2つの自我の間を
揺れながら葛藤

やりたいこと（自我）

・イヤダ！ ・ボクノ！
・ジブンデ！ ・ヤリタイ！



自我と第二の自我が時々繋がる3歳児。3歳児はイマジネーションの世界が広がり、大人と違う世界を生きています。集団が徐々に大きくなる時期ではありますが、発達は一律でなく、1人1人が時間差で色々な事を考えています。そのため、親や保育者がゆったりとした時間と気持ちで関わることで、自我と第二の自我のバランスをコントロールできるようになります。

この時期にもしっかり受けとめて切り返してもらふことで、4歳半頃には自己内対話をする能力が身に付きます。保育者中心でも子ども中心でもなく、「相互に主体的で対話的な関係」を築くためにはどのような保育実践が展開されたら良いかを考えさせられる講義内容でした。

仲間同士で語り合おう！！

～ワークショップ～



Q: 大人がしてほしくない
テーマのごっこ遊びが
始まった時、どう対応する？

戦いごっこ、戦争ごっこは
やってほしくないなあ・・・

地震ごっこは見守っていいの？

子どもたちが思いついた遊びの
「死んだごっこ」はやめさせるべき？

～3歳児クラスの「死んだごっこ」の実践記録を事例に、グループ内で話し合いました～

「死んだごっこ」と聞くと
ドキッとするが、友だちを起こす
ことを楽しんでいる遊びの内容の
ため、違う遊びで展開できると
いいかな？

友だち同士で遊びを展開
している姿は保障していきたい。
遊びの内容自体は楽しいやりとりがある
ので、大人の都合で遊びを変えたり
やめさせるのはどうかなあ？

遊びの内容は楽しそう
だが、「死」という言葉の
選択が、大人目線では良くない
印象がある。

保育実践を評価・分析してみると、保育が更に楽しくなる！

ワークショップの後に、子どもの遊びを3つの視点で分析する方法を学びました。

①社会的意味⇒テーマが適切であるか？

②発達的意味⇒子どもたちがおもしろさを共有しているか？ルールや虚構を共有しているか？

③教育的意味⇒推奨していい？修正したほうがいい？保育者は何をしたら良い？

遊びの表面（死んだごっこというネーミング）だけでなく、今回の実践記録を分析すると「死」という言葉は子どもにとってはどうでもよく、「動く」「動かない」が対になった遊びを発見して、友だちと虚構の世界（ごっこ遊び）を共有し、約束やルールの世界を生きている子どもの姿が感じられました。「動く」「動かない」が対になった遊びが今後どのように発展させていくか？という視点で見えていくと、保育が豊かになっていきます。

本来、大人の見えていないところでおもしろさをとことん楽しむ権利が子どもにはありますが、現在は地域の子どもの社会が希薄になっています。保育者はそのような環境も踏まえ、子どもの遊びを保障していきたいですね。その上で、どうしても受け入れられない遊びや言葉について、大人（一個人）の意見として子どもたちに投げかけることも必要です。

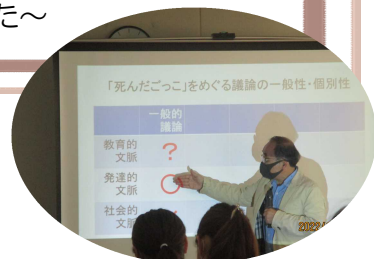
～分析する視点について、この他にも多くのお話を聞き、学ぶことができました～

★ゼミ受講者の感想★

- ・実践されている内容をもとに先生がお話をしてくださっているのとてもわかりやすかったです。
- ・3才児の発達を理解し、子どもが虚構の世界を共有できるように導いてあげる大切さについて特に心に残りました。

(T先生)

園、家庭、地域のそれぞれの立場での権利を考えながら子どもたちの第二の自我を育てる必要があり、近年大人のいない所で子ども同士で楽しむ空間が少ない事が問題という最後のお話がすごく印象的でした。大人がいない空間が保育士にも作れると良いと思いました。「死んだごっこ」は動く人動かない人の対あそびを楽しんでいるという視点で事例を読み返したらとってもほほえましく感じるエピソードになりました。(ひろさわ保育園 木村先生)



次回は 12月16日(金)
13:30~15:00
和光市役所602会議室で
お待ちしております！！

研修担当：保育センター
保育士 寺尾道代